

「ウチに入れば、東京建築カレッジで学べるよ！」 カレッジのパートナー事業所を紹介中

第28期生（2023年4月入学生）応募、間に合います。
安心して働ける職場の紹介で、担い手を確保・育成しましょう。



足場の上で腰に手を当てている姿の若者（左写真）は、東京建築カレッジ（以下、カレッジ）第23期生の本多忠勝さんです。本多さんは相羽建設（株）（東村山市、相羽健太郎社長）の社員。会社の研修で2年間、カレッジ

に通いました。1年間に約120日も勤務時間中に建築の学校に通わせてくれる職場は珍しい存在です。本多さんはカレッジを社員教育制度に取り入れている会社で働いていたのでカレッジに入学できました。同社は20

東京建築カレッジは、本校の全2年間の教育を新人の採用と育成に利用している工務店・建設会社を紹介しています。これらの会社で就職できれば、勤務時間中にカレッジに通い、建築の基礎が学べます。カレッジで建築士指定科目をすべて履修すれば、卒業後すぐに一級建築士を含めて建築士試験への挑戦が可能です。2023年4月入社Ⅱカレッジ入学、まだ間に合います。お問い合わせをお待ちしています。

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！Tel 03
(5950)
1771

カレッジには相羽建設のようなパートナーが36社もあります。そのうち多くの会社で正社員を募集。採用されれば入社と同時にカレッジに入学できます。社員教育なので学費は会社負担です。

パートナーは36社

15年度から毎年、新人を入学させて8年、社内に入カレッジ卒業生と在校生のグループが出来上がりました。



気になった方は、「東京建築カレッジ共同求人パンフレット」(右写真)をご覧ください。カレッジの公式サイトに掲載中。ご希望の方にはパンフレットと応募案内をお送りします。ぜひご連絡を！

写真提供：相羽建設（株）。同社ホームページでは「AIBAのひと」⇒「職人」でカレッジ卒業生・在校生の姿を紹介しています。

第28期生 入学選考会はあと2回！就職先も見つかる

	第5回	第6回
応募締切日	1月20日(金)	2月17日(金)
入学選考会	1月25日(水)	2月22日(水)

学校紹介資料、入学願書など応募書類をお送りします。また、ご希望の日に学校説明も行います。入学をご検討の方はご連絡ください。就職先紹介をご希望の方は入学願書などと一緒に、所定の「求職申込書」をご提出ください。右のQRコードから公式サイトにアクセスできます。



平面と立体の関係をつかめる脳に

「建築情報管理」

1年生の授業から

「建築情報管理」はパソコンの使い方を習うだけではありません。

11月18日午前の授業では投影法を学習。いつも製図で描いている平行投影された平面図や立面図を見て、それが

どういう立体なのかをイメージし、等角投影図（アイソメトリック図）で表現する訓練を行いました。平面と立体の関係をつかむ脳を鍛える授業です。

「設計の授業のほとんどは平面で表現する学習中心ですが、図面を見て、それがどういふものなのかをイメージし、さら

に説明・表現するスキル（技術）は建築の仕事で不可欠。そういう視点を持たずに今後の学習を進めてほしい」と担当の板本安積講師は話します。

25日には住宅・建築プレゼンテーション用ソフト「3Dマイホームデザイナー」を使って、自分がイメージした建築空間を伝える練習を行いました。上写真。



「実習棟実習」

2階建ての木造軸組みの家を手刻みで造る「実習棟実習」は3日（土）、17日（土）、23日（金）に江東実習場で。授業見学を歓迎します（予約制）。ご希望の方は必ずご連絡ください。

2年生の授業から

12月24日（土）卒制プレ発表会

第26期生（2年生）の卒業制作はテーマが決定。「教卓」班、「小屋」班、「屋台」班、「ポニー台車」班の4班。各班ごとに、コンセプトの確認、図面作成、材料拾いが急ぎ行われています。進みの早い班は原寸大の模型作りに着手。問題点を洗い出しながら精度の高い作品作りに取り組めます＝下写真「教卓班」。



12月24日（土）午後には「プレ発表会」が行われます。テーマ選定や設計・施工の考え方をパースや図面を見せながら、先生方や1年生に伝えるように語ることが求められます。物を作り上げるだけでなく、企画構想から完成までの全工程をゼネコン（総合建設業）のようにコントロールする能力が問われます。

新たに矩計演習を開始

かなばかり

「基礎製図Ⅴ」

建築カレッジの授業は毎年度、工夫し改良しています。今年度は2年生の「基礎製図Ⅴ」で「矩計（かなばかり）」（Ⅱ断面詳細図）演習を行うことにしました。昨年の教務運

営委員会でも「実習棟実習」担当指導員から「実務では矩計図を作成、理解する能力が必要になるので、矩計をきちんと教えるべき」という要望があり、100分間×全5回の授業を導入しました。担当は長谷部浩講師です。

今の新築現場ではプレカット材の組み立てが主になっていますが、プレカット図が設計図面と整合しているか等を確認できる能力が求められます。カレッジは工事現場を管理できる高度な設計・施工者の育成を目指しており、矩計演習は欠かせないと考えました。教材はCAD（コンピュータ支援設計）授業でも課題として



の平面図、断面図。これを基に矩計図を作成することとし、科目横断型で学習の相乗効果がかかるようにしています。